




令和5年3月31日発行
 第14号
 岡山市教育委員会
 生涯学習課公民館振興室
 (岡山市北区幸町 10-16,
 TEL (086) 234-6015)
 公民館振興室 HP 

長年のESD活動が評価され 京山公民館が最優秀館に

県内では
初の受賞

この度、京山公民館が、「特に優秀な成果を上げ、他の模範と認められる公民館」として表彰される文部科学省「第75回優良公民館表彰」において、最優秀館に選ばれました。県内の公民館では初の受賞です。

これを記念し、1月28日の京山地区ESD・SDGsフェスティバルにおいて、記念セレモニーを開催し、最優秀館選定を祝う懸垂幕を掲示しました。



最優秀館選定を祝う懸垂幕

活動に参加する好循環も生まれており、地域課題を「自分ごと」として行動する新たなまちづくりの担い手を生み出し、世代間交流も活発になっています。

若者の提案をふまえた新たな事業の展開

コロナ禍のもと、孤立しがちな人が増えたこともあり、「食」や日用品等の提供等を通じて、地域の住民どうしの交流や支え合いを行う「つしまみんな食堂」、若者が企画し、地域内の文化財や地元企業を巡る「SDGs・健康ウォークラリー」など、従来の活動にSDGsの視点を取り入れた取り組みを行っています。

また、ESD活動に参加する若者たちからの提案をもとに、令和3年度には、各家庭等で季節の野菜のプランター栽培に取り組むことにより、日頃の消費行動の見直し等をめざす「京山アグリプロジェクト」、令和4年度からは、独自に製作したオリジナル



「京山アグリプロジェクト」

・タンブラーの普及により、ペットボトルをはじめとしたプラスチック使用削減に向けた、意識・行動の見直しをめざす「マイボトル普及キャンペーン」等にも取り組んでいます。

この度の受賞を励みとし、市内の全公民館が、学びと実践を繰り返しながら持続可能な社会づくりに貢献していくことをめざしていきます。

地域の様々な組織とESDに取り組む活動

平成15年度から、地域の様々な組織等がつながり、学びあうことにより、持続可能な社会づくりをめざすESD活動を開始しました。

小学生から大人までが一緒に地域環境を調査する「環境てんけん」や、毎年、ESD活動に取り組んでいる学校や団体等が一堂に会して、活動の成果や課題について学びあい、新たな活動について考える「ESD・SDGsフェスティバル」、お互いの文化や風習を理解し認め合う多文化共生プロジェクト、自転車の安全運転キャンペーンなどを継続して行っています。



「環境てんけん」

平成15年当時小学生だった子どもたちが大人となり、再び公民館

※「れんめんめん」の由来…「連綿」と途切れることなく、「面」のように広がりを持ちながら、人々の営みが将来へとつながり未来を拓いていくことができるように、という願いを込めています。

※QRコードの商標はデンソーウェーブの登録商標です。

令和4年度岡山市立公民館大会

4つのテーマで

地域福祉・共生

【参加者 61 名（リモート 7 名）】

高齢者のサロンや居場所の持続性を考える ～多様な人や世代をつなぐ公民館の可能性～

1月29日
操山公民館

高齢者サロンや居場所を持続的に運営していくためにはどうすればよいかについて話し合い、次のような意見や、実際に行っている工夫が次々とだされ熱気をおびた会となりました。



吉備公民館では、「サロン応援隊」をつくり、そこに登録している公民館クラブ講座生や個人が地域のサロンに出向いて活躍しています。サロンの運営者の負担を軽くするためにも、「サロン応援隊」を全館につくってほしい、という意見がありました。

また、「仲間を増やす、負担少なく、楽しく」するためには「ビスケット」（微助っ人）をモットー

にささやかな助っ人をつくること、行事中心ではなくたまり場を増やす、連合町内会にサロン部会をつくる、サロン同士の交流を行う、高齢者サロンと子育てサロンや中高生など若い世代の活動をつなげることで活力が生まれる、などの意見がでました。

参加者から「サロンに男性参加者を増やすにはどうしたらよいか」という「問い」もだされ「話のきっかけに名刺をつくって趣味など書いておけばよいのでは」というアイデアもでました。

公民館では、高齢者サロンや身近な通いの場が、より楽しく持続的な運営となるよう、スタッフの学びや交流の機会をつくり、多様な人がつながり活躍していくことができるような取り組みをすすめていきます。

防災・減災

【参加者 35 名（リモート 7 名）】

多様な主体との協働による防災教育 ～子どもの防災力UPへ〈学校と公民館の連携を事例に〉～

1月29日
津高公民館

津高公民館と福田公民館が地元の小学校の授業の中で行った防災教育の報告、ボランティアグループ「まちのBOSAI屋さんクアトロシクロ」からは、「危険」や「不便」の箇所を落とし込んだ地図をつくることによる防災活動についての報告がありました。

その後、グループごとに子どもの防災力アップのために、学校・地域・NPO・公民館等の多様な主体が連携をして、どんな活動を行えばよいかについて話し合いました。「みんなで作ろう！防災食」「たき火を囲んで防災クッキング」や、「たんけんはっけん 防災ラリー」として避難経路を歩いて危険箇所をマップに記入し、到着後にみんなで伝え合い備蓄食を食べるような取り組みを行ってはどうかという提案がありました。

助言者からは「子どもたちも5年、10年後には地域の人になる。学校だけ、地域だけが活動を担うのではなく、相互に支援し合う関係性を築かなければ持続可能にならない。お互いに情報を共有し、連携していくことが子どもの防災力アップにつながっていく」との提起がありました。



公民館では、地域の情報や地域の人々の力を活かしながら、学校との連携を深めていきたいと考えています。

各地域の取り組みをもとに、学び合い、語り合いました

地域づくり

【参加者 46 名 (リモート 7 名)】

2月4日

旭東公民館

地域の「宝」で未来をひらく！

参加者は自分の住む地域の「宝」は何かを考え、その「宝」をどう育て、地域づくりをすすめていくかについて話し合いました。

たとえば、市内を流れる西川を「宝」としたグループは、「歴史とものがたりを感じられる西川」となることをゴールと仮定し、川辺キャンプ、夕涼みイベントなど西川を楽しむこと、西川の歴史を知ることや、西川をテーマにした劇や川柳をつくり、他の人に知らせることを行ってはどうか、という意見が次々とだされました。

助言者からは「子どもや若者、地域住民が主役となり楽しく活動をすすめていくためには、住民からの提案を実現していく仕掛けや仕組みづくりが大切で、公民館はその拠点である、未来づくりのための活動を楽しみながらやっていくことが、仲間を増やし、公民館や地域の魅力化にもつ

ながる」との提起がありました。

上南公民館からは、明治時代に夏目漱石が地元金田地区に滞在したという歴史を掘り起こして地域を盛り上げている報告がありました。

西大寺公民館からは、雄神学区の住民と協働して、子どもを核とした地域づくりをすすめており「みんなで学校ごっこ」という行事を計画していることが報告されました。大会後の2月26日に開催し、子どもも大人も「センセイ」になって楽しく学び交流する会となりました。この行事の詳細については次号でお知らせする予定です。



若者の地域参画

【参加者 95 名 (リモート 13 名)】

2月5日

操山公民館

つながれ！～中学生×地域×公民館

公民館では「若者の地域参画」をめざしており、中学生が自らのアイデアを形にした事業の企画・運営ボランティアとして活躍しています。藤田、高島、御南西、灘崎の各公民館で活躍している中学生や高校生が、工夫を凝らして自分たちの活動について発表しました。

活動内容は、小学生を対象とした公民館講座の企画運営、地域の動画づくり、地域のまつりや行事への参画など様々です。中高生からは、活動をとおして「地域の人と関わることが楽しい」「参加者の喜ぶ姿に自分



も役に立っていると感じる」「自信がついて積極的に行動することができるようになった」

「自分たちの住む地域を盛り上げていきたい」と感じていることが語られました。

後半はグループごとに、大人から中高生に、活動の中でのやりがいや困ったこと、大人への期待などを質問して、若者と大人との対話の時間を持ちました。

参加した中高生から「他館の発表から多くのことを学んだ」「発表に対してあたたかい笑いや拍手をいただいて嬉しかった」「これからも失敗を恐れず挑戦したいと思った」などの感想がありました。大人にとっては、中高生の思いを尊重しながら伴走者として寄り添うことの大切さを学ぶ機会となりました。

公民館では、今後も中高生が地域で活躍する場づくりをさらに広げていきたいと考えています。

シリーズ地域の宝や魅力を未来へつなごう③

妹尾・藤田・操南公民館

ふなめし ~岡山の郷土料理を味わい伝えていこう~

岡山の郷土料理である「ふなめし」を次世代へ継承していく取り組みを行っています。



「ふなめし」(妹尾公民館)

妹尾公民館では、今年の1月28日に3年ぶりとなる「第19回妹尾ふなめし祭」(共催:妹尾ふなめし保存会)を開催しました。ボランティアとして参加した中学生から「思ったより美味しかった」「私たちが伝えられるようにしていきたい」という感想がありました。

藤田公民館では、3月12日に「親子でふじたのふなめし作る!」を開催し、地域の方から昭和20~30年代のくらしや食べ物、遊びや自然の恵みについての話を聞いてから、ふなめしの作り方について学び交流しました。

操南公民館では、「ふなめしを食べよう」という行事を毎年行っていましたが、コロナ禍により開催できなくなったため、令和2年度に「ふなめしのレシピ動画」を作成し、公開しています。 →



岡山県 鮎めし(ふなめし)

「鮎めし」の歴史は、児島湾干拓の歴史と共にある。岡山県の南部地域は、古くから干拓によって形成された水田が発達。江戸時代から本格的な新田開発が始まり、先人たちは苦勞をして開墾を進めてきた。水田、水路、河川、児島湖とつながる水環境に恵まれ、ヨシ、フナ、マツカサガイなどが生息している。干拓地にはりめぐらされた農業用水路では多くのフナが獲れ、その中でも寒い時期に獲れる「寒鮎」は、特有のコクがあると珍重され、貴重なタンパク源となっていた。寒い冬の日、新鮮な寒鮎をまな板の上で調子よくトントンと包丁でたたいて料理したことから、「とんとこ汁」「とんとこ飯」とも呼ばれ、地元の人々に愛されてきた。「鮎めし」は、ミンチ状にしたフナを野菜と一緒に炒め煮して作り、脂ののった寒鮎と根菜がたっぷり入ったコクのある汁を、熱いご飯にたっぷりかけて食べる。

出典:農林水産省 Web サイト

(https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_ryouri/search_menu/menu/41_23_okayama.html)

「生き物の保全」シリーズ③ 建部町公民館

きれいな川に生息する「アカザ」
15年間続く「旭川かいぼり調査」

アカザは、大きいものでも体長10cmぐらい、ドジョウのような体形をした赤色の魚です。



アカザ

ヒレにはトゲがあり、刺されるとピリッと痛いです。川の上中流部におり、ふだんは石の下に潜っているので見かけることは少ないです。

水がきれいで川床の様子の良いところに生息していますが、河川改修などで減少しており、環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類になっています。

北区建部町竹枝地区では、このアカザを環境指標

とした大規模な環境調査「旭川かいぼり調査」を、小学校前の旭川で、毎年11月に、地域住民、岡山理科大学などの研究者、漁業協同組合、環境保護団体、建部町公民館などが協力して15年間行っています。この調査は川の一部を堰止めて、200~300人ぐらいが川床の石をはぐって生き物をさがす市民参加型調査です。この活動を通じて、旭川の保全につながるデータを蓄積し、川に親しむ人の輪を広げています。

あまりなじみがない魚だと思いますが、いい川のパロメーターです。みなさんの近くの川にいるかどうか、石をはぐって探してみませんか。



「旭川かいぼり調査」の様子